



続けられたのは両親のおかげ 国体に出られたことで ちょっと親孝行できたかな

HITO

宮木祐太さん

(第58回国民体育大会冬季大会
スキー競技会に出場)

2月22日から25日に、北海道名寄市で開催された、なよろサンビラー国体「ジャイアントスラローム」少年男子の部に、富士見在住の宮木祐太さんが出場しました。

「幼稚園のときから父と一緒に、行ってスキーが大好きになり、中学生まで毎年3・4泊で楽しんでいました。」とスキー歴十数年の宮木さん。しかし競技スキーを始めたのは、高校に入学して、単純に「スキーができる」と思って入部したスキー部が、競技中心の部であったことがきっかけでした。

毎年12月20日過ぎから約3週間、北海道で合宿を行うほど熱心な部活動でしたが、初めての大会で、

「3年間、競技スキーを続けられたのは、応援してくれた両親と熱心に指導して下さった顧問の先生のおかげです。とても感謝しています。高校生最後の大会として、国体に出られたことで、ちょっとは親孝行ができたかな...と思います。」と、少し照れながら話してくれました。宮木さんの頑張り屋だけではない優しい一面が現れました。



「ジャイアントスラローム(大回転)は、ふつう2本の合計タイムで順位を決めますが、国体は1本のみで競います。」

ものすごいスピードでボールの間を駆け抜ける爽快感のとりこになります。そして、受験勉強のために引退したくない。3年生の最後まで大会に出場するために大学へは推薦でいきたい。」と思い、スキーを続けるために1年生のときから定期試験でも一生懸命勉強しました。その努力が実って指定校推薦の枠を獲得、他の3年生部員が夏前に引退した後も練習を続け、地区大会や関東大会に出場して優秀な成績を収め、大学進学のための推薦試験にも見事合格しました。

このように順風満帆に見える宮木さんですが、インターハイ出場を決める地区大会ですごく悔しい思いをしたんです。1本めは4位でした。インターハイは4位以内の成績で行けることになっていたので、浮かれてしまったんです。2本めでコースを間違えて15位まで転落し、結局インターハイを逃して関東大会に出場しました。

3年間で一番悔しかったです。」と苦い大会の思い出もあります。しかし、その悔しい思いとは裏腹に、2年生の大会成績などで獲得したポイントと3年生の大会成績で、埼玉県から5人しか出場できない国体選手として選ばれたのです。他の4人は、中学生から競技をしていた、すごくうまい人ばかり。だから自分が選ばれたのは夢のようです。」と謙虚な宮木さん。それでも、国体の目標は、埼玉県選抜選手の最下位にはなりたくない。」と熱く語り、言葉どおり県でトップという自身な成績を収めました。

現在は、大学入学を控えて一人暮らしの準備をするかたわら、部活動にも参加して忙しい毎日です。「大学では、他のサークルで活動することも考えています。ヨーロッパの広いゲレンデで滑ってみたいし、スノーボードもやりたい。中学のときやっていたサッカーもやりたい。やりたいことがいっぱいあるんです。」と目を輝かせます。自分で決めた目標のために一生懸命努力し、結果してきた宮木さん、「3年間続けられたことが、自分の自信になりました。これからの人生でも前向きに頑張れそうな気がします。」と爽やかに笑いました。

街路樹で信号が見えにくい！ 道路に陥没を見つけた！！ 皆さんの情報が事故を未然に防ぐ



側溝や集水ますの清掃、低木などの立木の伐採、簡易な舗装整備は、直営工事担当の職員10名で行います。

問い合わせ道路課へ内線2135

道路の維持管理という業務は、道路の修復だけではありません。街路樹の管理や側道の除草、雨水を地下に浸透させる集水ますの清掃などがあります。中でも街路樹の管理は大変で、ハナミズキ、ケヤキなど24種類、約4千本が植えてあり、その枝の剪定や消毒も行っています。特に落葉樹は、秋にな

ると枯葉が落ち、付近の皆さんから剪定の要望が寄せられます。木の種類によって、時期や方法が異なることから、いつも剪定には気を使っています。と、担当の方が話していました。道路の維持管理といっても内容は多岐にわたり、大変な仕事だと思いました。道路課には、道路に関する要望やご指摘が毎年1千件以上も寄せられるそうです。身近で切実な問題であることから、その数の多さにもつながります。そしてその要望には、できるだけ早く現場を確認し、対応しています。このことが道路を適切に維持管理するための重要な鍵でもあるのだそうです。皆さんも道路の陥没などに気づいたら道路課へ連絡してください。あなたの貴重な情報が事故を未然に防ぐことにつながります。

REPORTER'S EYE

市道の維持管理(道路課)



【リポーター】

木元玲子さん(つつじ野在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、市民がレポートします。

ふだん、何気なく歩いたり、自転車や車で走っている道路は、生活するうえで欠かすことができないものです。今回は道路課で、より生活に関わりのある市道の維持管理について話を伺いました。市内を走る道路は、首都圏中央連絡道(高速道路)が約3.6km、国道16号などの国道が約11km、日高狭山線などの一般県道が約19km、所沢狭山線などの主要地方道路が約13kmありますが、市道はどの位あると思いますか。なんと延長で約850kmもあるのです。この距離は東京から大阪までの1.6倍にもなります。また、市では農道な

どを除いた600kmを舗装する道路と定め、現在約500km(83.7%)の舗装が完了しています。道路課はこれらの市道を維持管理しているのですが、舗装は20年くらいしかもちません。しかもトラックなどの大型車両が頻繁に通る道路では、10年くらいしかもちないそうです。そして道路によって、傷む箇所や耐用年数も違います。そのため、管理課や下水道課などの工事関係課で、毎月2回の道路パトロールや市職員の通勤や市内に出た際に、道路上の危険箇所の通報を受けています。さらに平成7年9月には、市内を巡回する職員が多い郵便局、東京電力、NTTとの4者協定を締結して、道路状況の情報提供をしていただいています。これらの情報と整備年度などを考慮して、毎年傷んだ箇所を修復しているそうです。



民間団体や企業などが里親となり、道路の一定区間をいわば自分たちの養子として面倒をみるボランティア清掃活動「アダプトプログラム」も検討しているそうです。